

富士ダイス株式会社

2020年3月期 決算説明資料



匠の技と信頼の輪

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2020年3月期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	25
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	38

page

I :	会社概要	2
II :	当社の特長	6
III :	2020年3月期 業績概要	14
IV :	2021年3月期 業績見通し	25
V :	成長戦略（中期経営計画）	28
VI :	参考資料	38

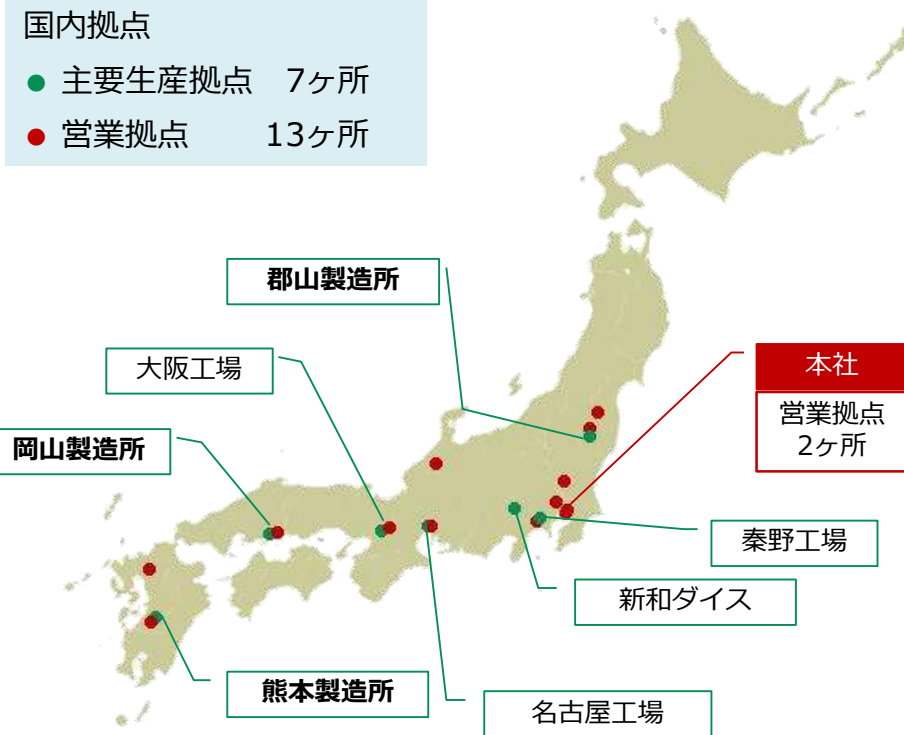
会社概要

商号	: 富士ダイス株式会社	創業	: 1949年6月
所在地	: 東京都大田区下丸子2-17-10	設立	: 1956年4月
資本金	: 164百万円	事業目的	: 超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造・販売
代表者	: 代表取締役社長 西嶋 守男	従業員数	: 1,155名 (2020年3月期末、連結)

拠点 (2020年3月31日現在)

国内拠点

- 主要生産拠点 7ヶ所
- 営業拠点 13ヶ所



海外拠点

- 5ヶ国



※2017年5月に門司工場を閉鎖し、生産設備を熊本製造所に移管

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

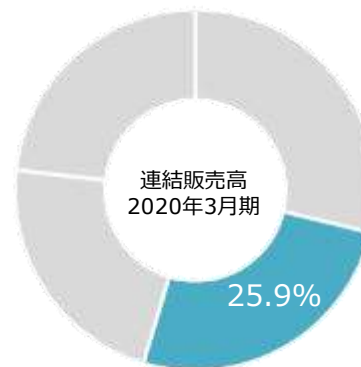
超硬製工具類

- ダイス、プラグ
- 溝付きプラグ
- 熱間圧延ロール
- 超高压発生用工具 等



超硬製金型類

- 自動車部品製造用
- 製缶用
- 電池関連用 等



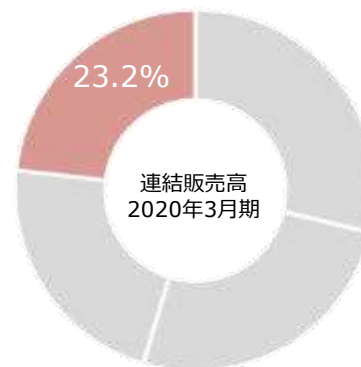
その他の超硬製品

- 超硬合金素材
- 半導体製造装置用部品 等



超硬以外

- 鋼製品
- KF2製品
- セラミックス製品
- ダイヤモンド研削砥石
- FHR製品
- 銅タン
- NFメタル
- 引抜鋼管 等



様々な製品の製造工程に用いられる

- お客様の製造工程における生産性（加工速度や精度）向上に直結する
超高精度の工具・金型を提供

当社工具・金型



ダイス・プラグ



冷間鍛造用金型



製缶工具



絞り加工用金型

お客様の
最終製品例



飲料缶



携帯電話・スマートフォン



光学機器



家電製品



輸送用機械



燃料電池



医療用機器



航空機

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2020年3月期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	25
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	38

POINT1

超硬耐摩耗工具業界で長期に亘り**国内トップシェア**

POINT2

受注生産・直販体制、**全国をカバー**するネットワーク
取引先は**約3千社**、**業種も多岐**に亘る

POINT3

一貫生産体制により様々なオーダーに柔軟に対応

POINT4

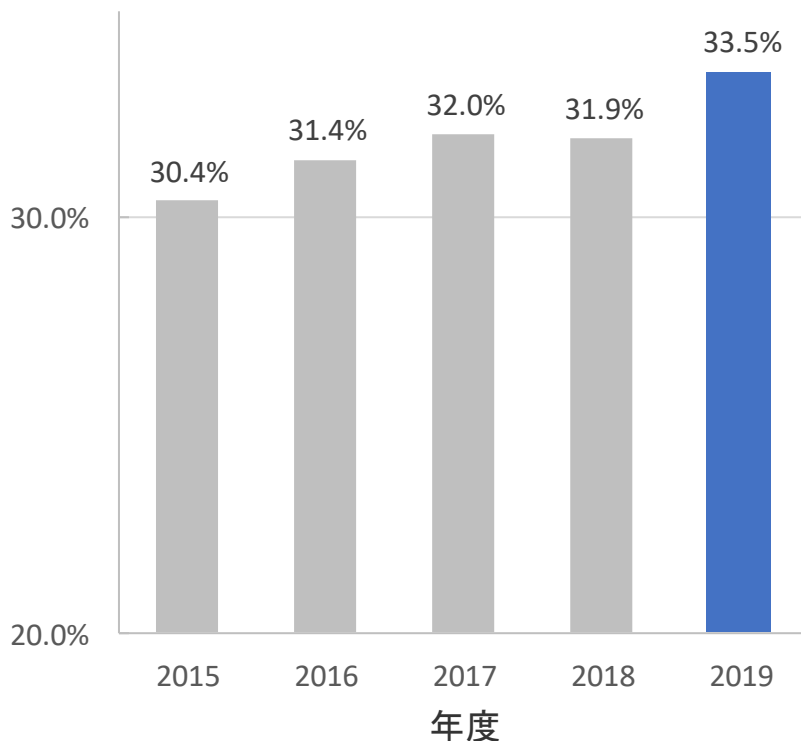
開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

POINT5

堅固な財務基盤

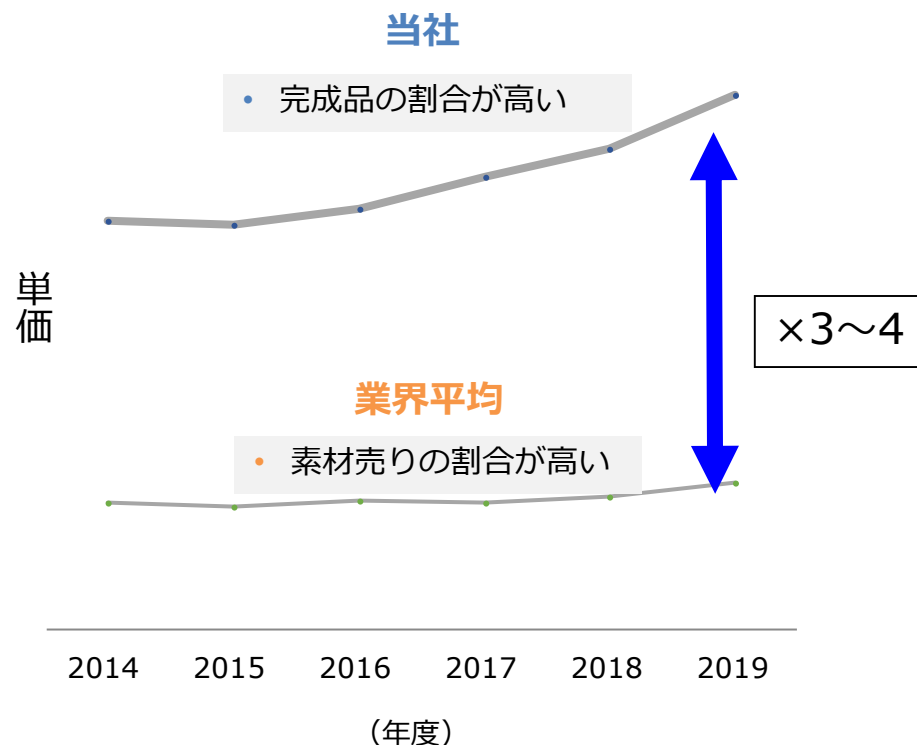
- 国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り、トップシェア（30%超）**を堅持
- 少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定**して推移

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



出所：日本機械工具工業会

製品の平均単価の推移



- **業界最大**の約100名の営業員による**直接販売網**を構築
- メンテナンス（修理・再研磨）により**高いリピート率**を実現

拠点網 （2020年3月31日現在）

主要生産拠点 7ヶ所

郡山、秦野、名古屋、大阪、岡山
熊本、新和ダイス（山梨）

営業拠点 13ヶ所

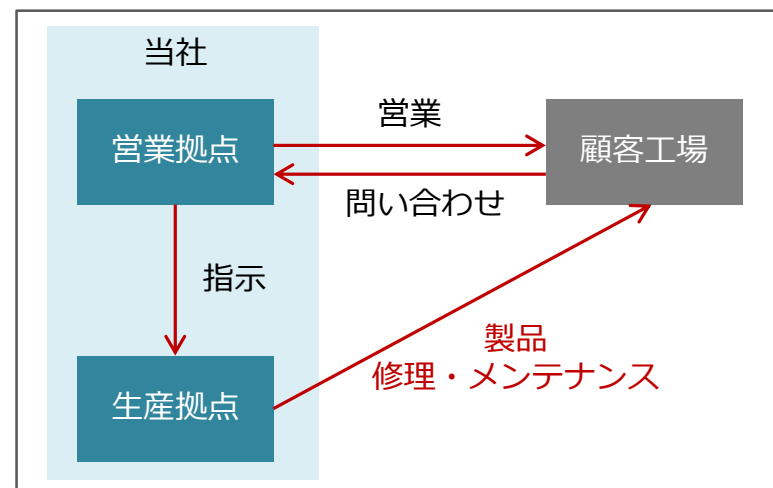
郡山、埼玉、秦野、栃木、東京
岡山、大阪、名古屋、北陸
熊本、北九州、本社（輸出部）
富士シャフト（福島）



※2019年8月に門司営業所を北九州営業所として移転、開設

顧客との強固なネットワーク

- リレーションを強化することにより、顧客の要望に対しタイムリーに対応
- 顧客の生産効率アップに繋がる提案が可能

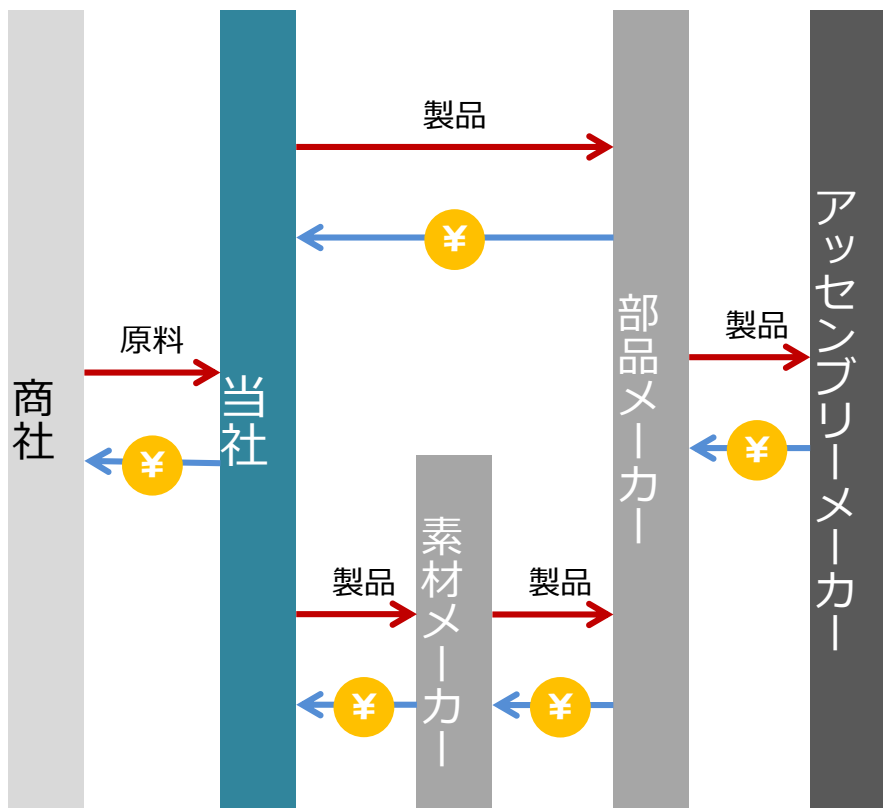


顧客ニーズ

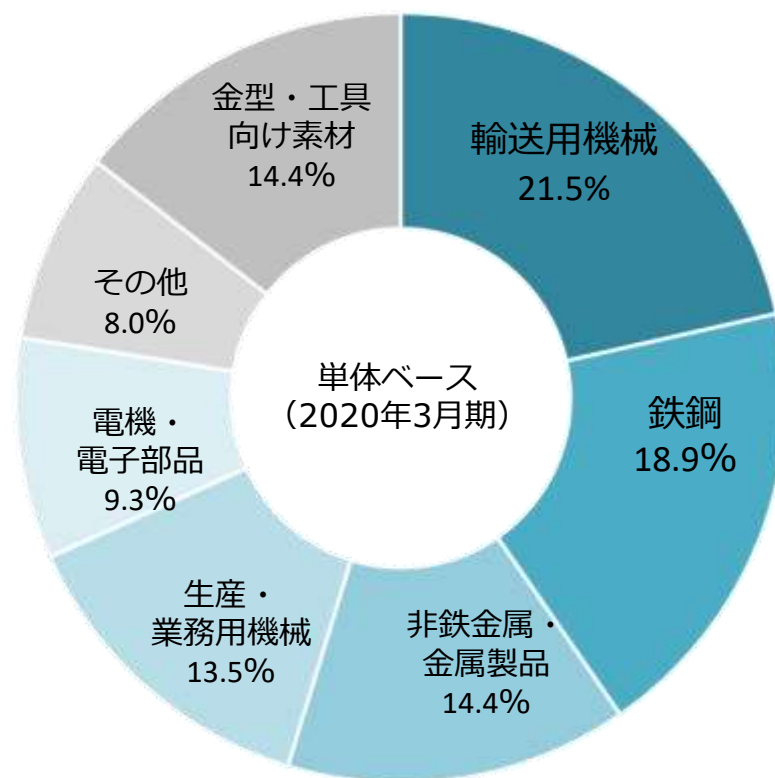
- 製品自体の耐摩耗性や精度の高さ
- 設計思想や生産体制に合った製品

- 少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の**受注生産・直接販売**を行う
- 取引社数は**約3千社**、**業種も幅広い**
- 特定の系列に属さない**独立系**のため様々な業界、企業と取引が可能

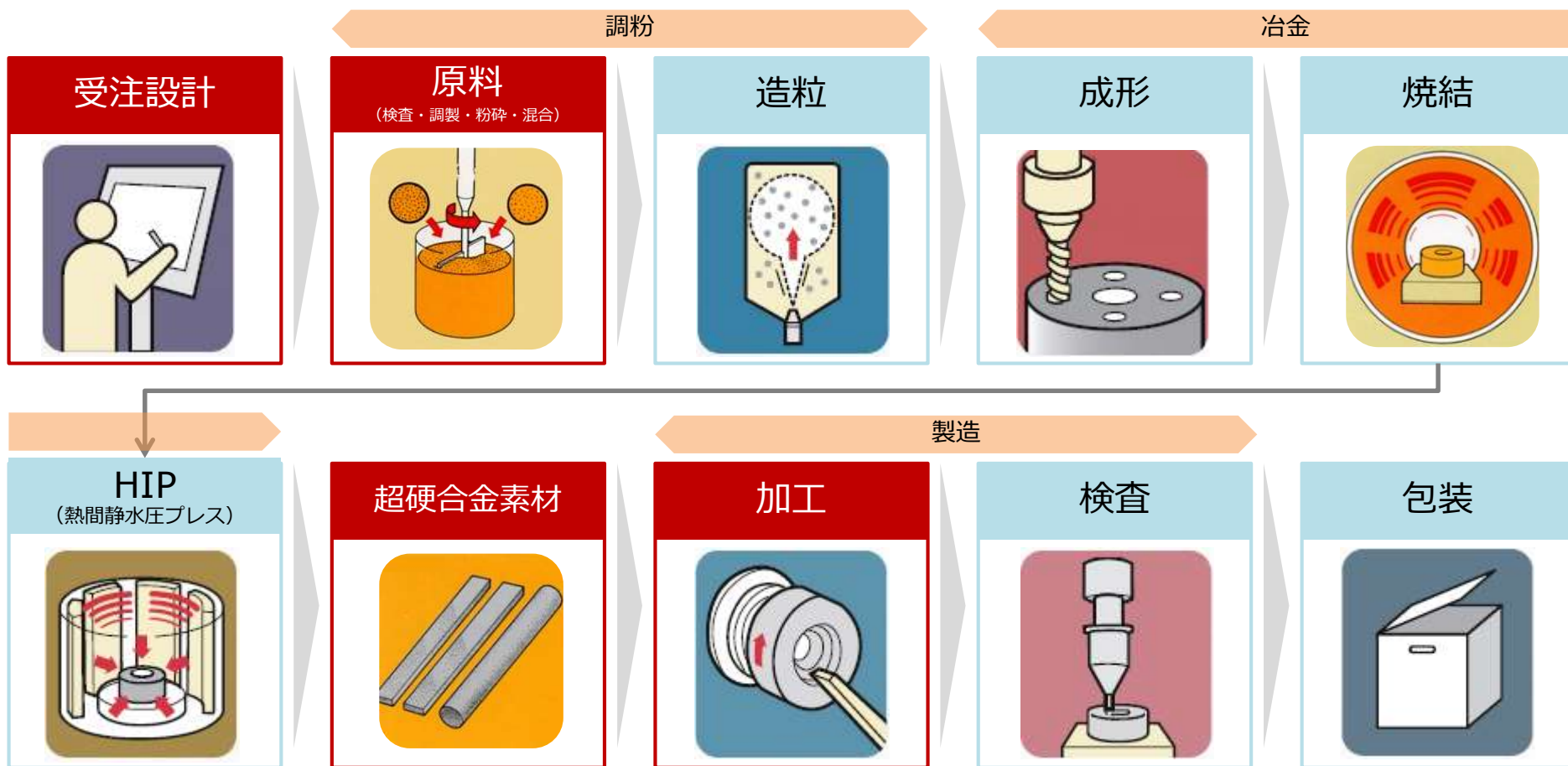
事業フロー



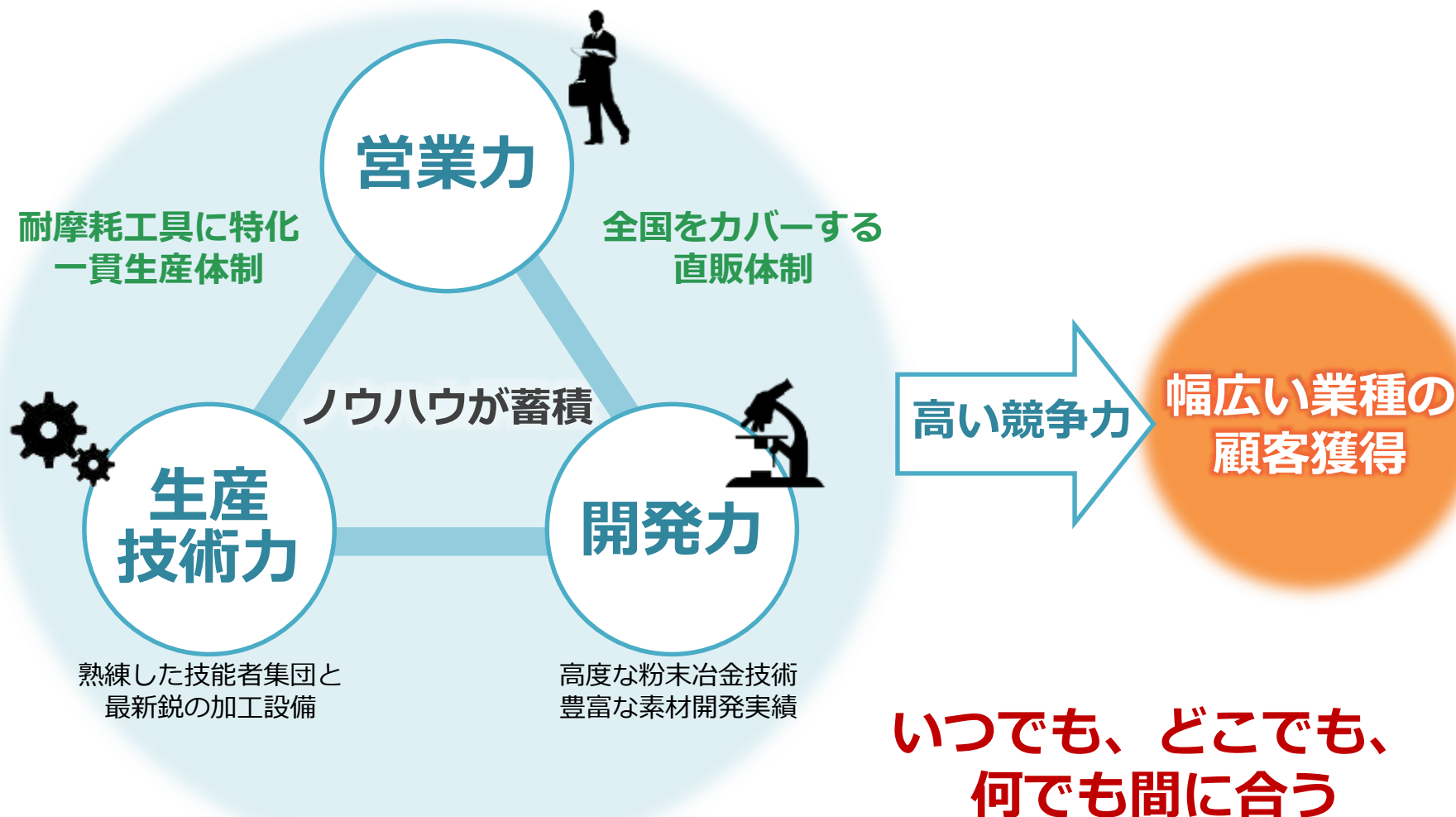
顧客産業分類別売上構成比率



- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 高度な粉末冶金技術と加工技術
- 様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）

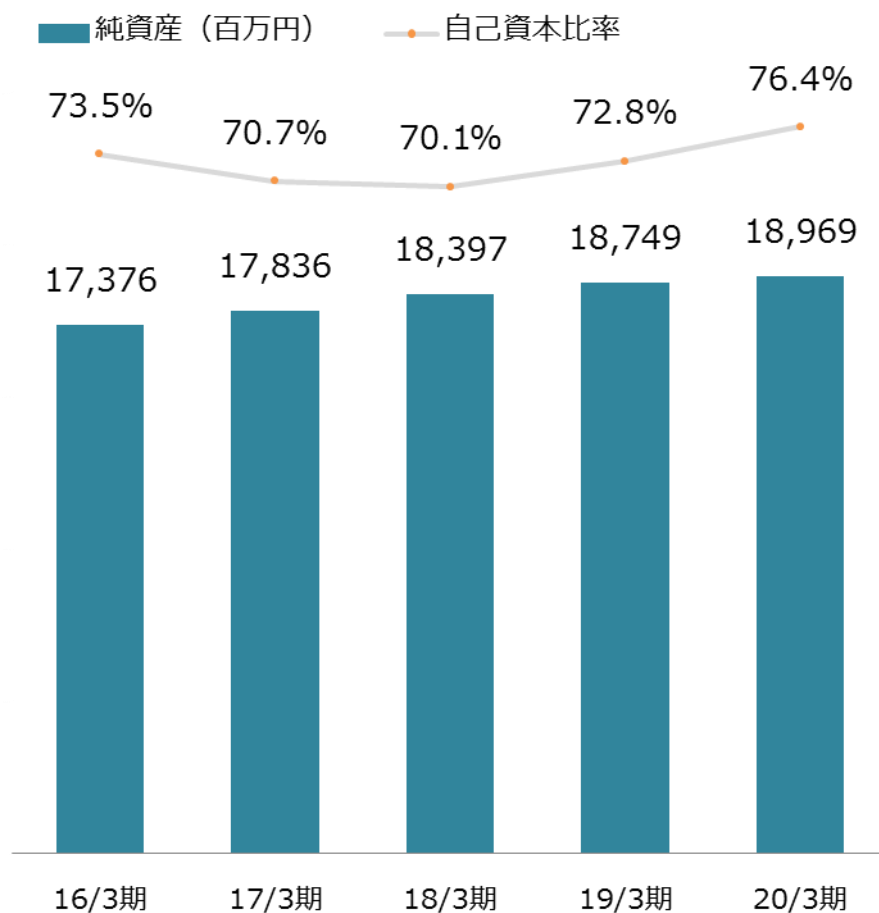


- 開発力、生産技術力、営業力の相互連携によって、高い競争力を創出

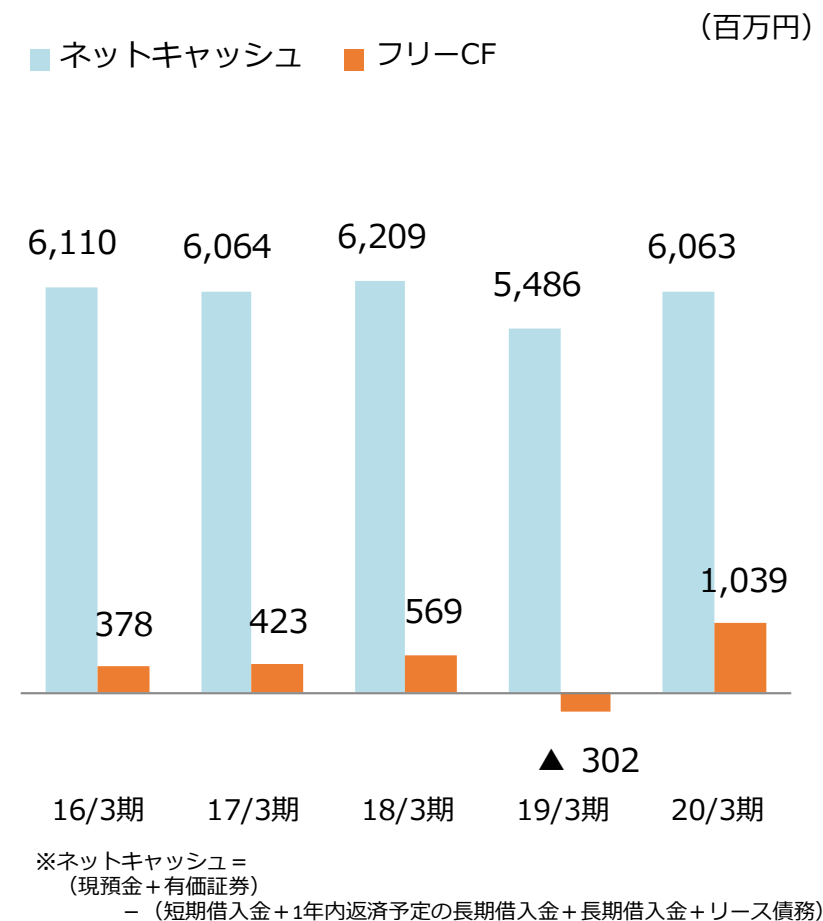


- 創業以来現在に至るまで**黒字経営**を継続し、高い自己資本比率を維持
- 手元資金も潤沢

純資産・自己資本比率推移



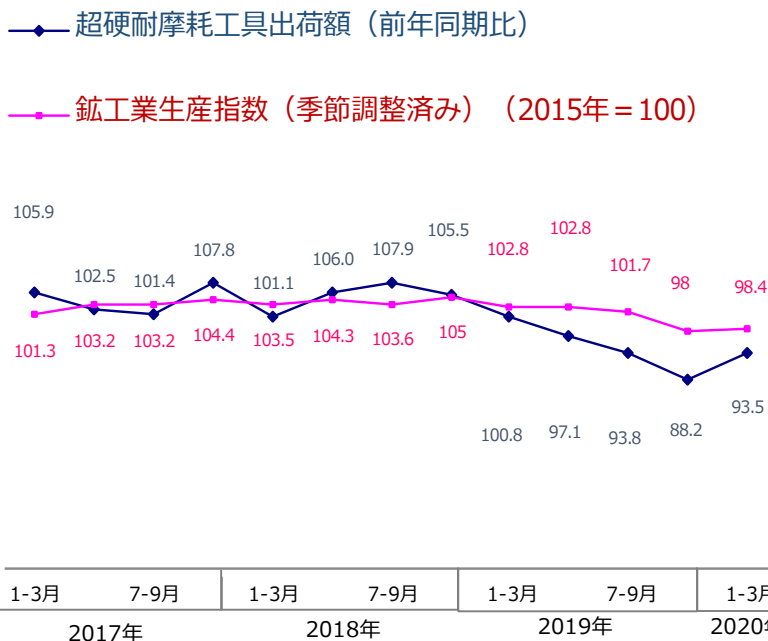
ネットキャッシュ残高・フリーCF推移



	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2020年3月期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	25
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	38

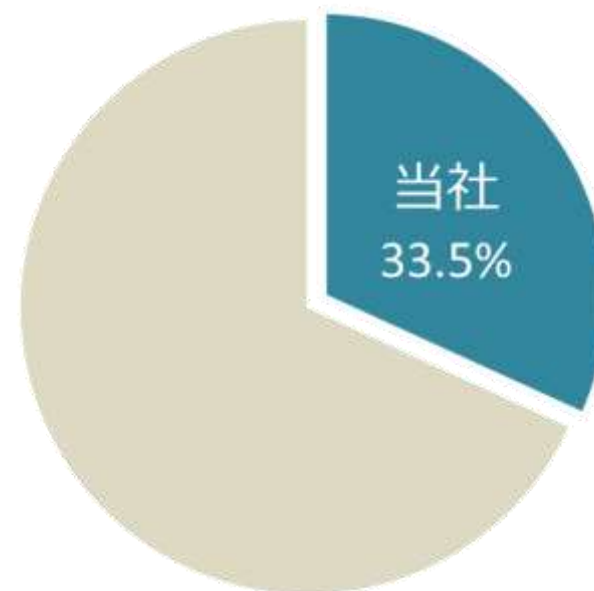
- 鈹工業生産指数は2019年10-12月期より指数100を割り込む
超硬耐摩耗工具出荷額は前年同期比で2019年4-6月期より減少に転ずる
- 超硬耐摩耗工具市場でトップシェア（約30%）を永年に亘って維持

超硬工具出荷額（指数）推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鈹工業指数』

耐摩耗工具国内出荷額シェア（2019年度）

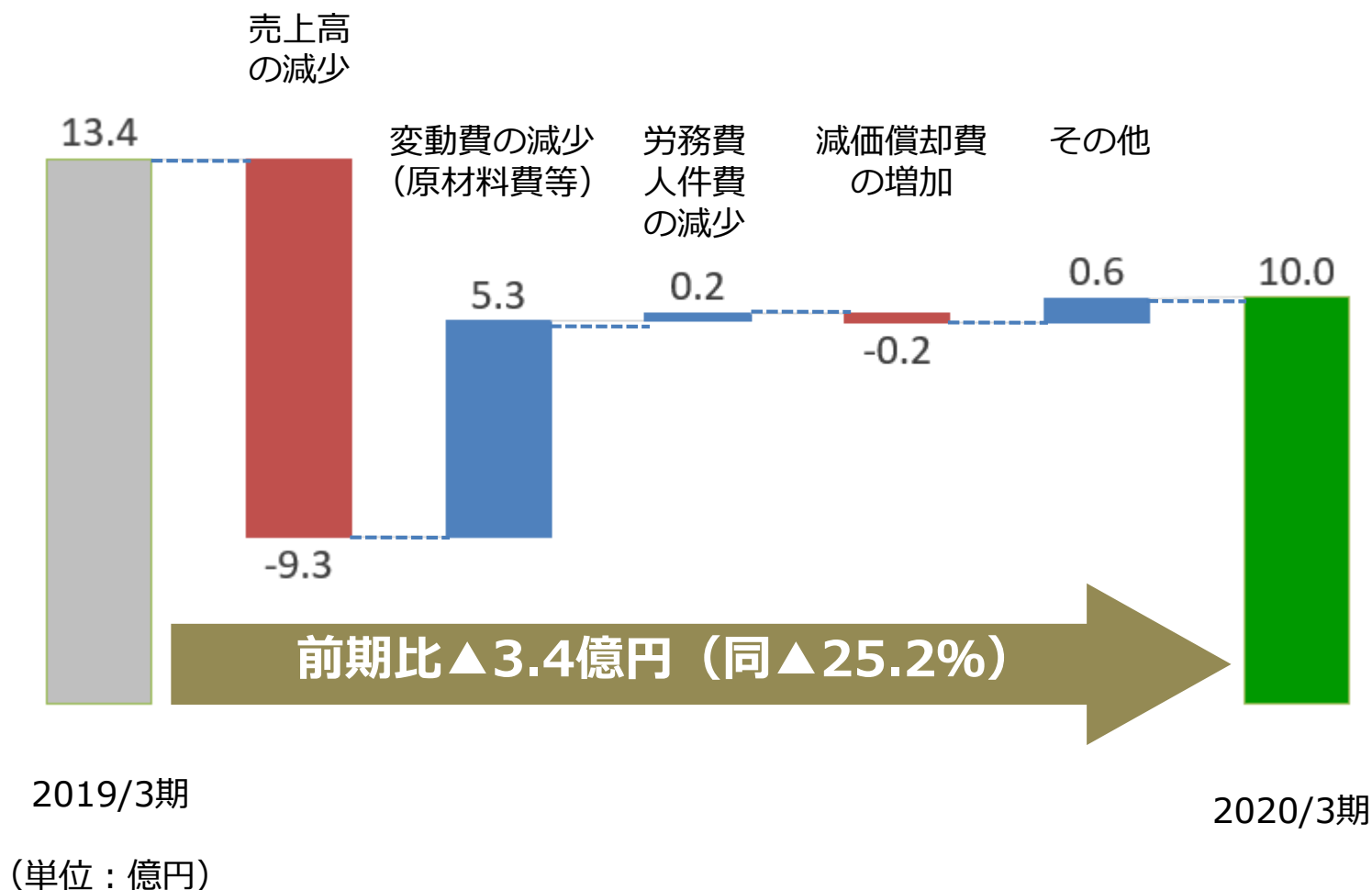


出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』

連結売上高	17,426 百万円	(前期比 94.9%) (計画比 93.2%)
連結経常利益	1,008 百万円	(前期比 74.8%) (計画比 72.6%)

- 売上高、経常利益ともに前年度の業績を下回った。
- 顧客主要産業分類別では、“輸送用機械”や“生産・業務用機械”が堅調に推移したが、それ以外の分野は低調だった。
- 製品別では“自動車部品生産用金型”や“光学素子成型用金型”、“電池関連金型”“熱間圧延ロール”や“超高压発生用工具”の販売が好調だったものの、“引抜鋼管”の販売不振に加え、“混錬工具”や“冷間フォーミングロール”、“半導体及びスマートフォン部品生産用の超硬金型素材”等の販売が低調となった。
- 利益面では、長期化する米国の通商政策による貿易摩擦、消費増税や相次ぐ自然災害に伴う消費マインド低下等の影響による売上減で、前期比減益となった。

経常利益 増減要因 (前期比)



連結損益計算書 (前期比)

(単位：百万円、下段は構成比)

	2019年3月期	2020年3月期	
			前期比
売上高	18,356 (100.0%)	17,426 (100.0%)	94.9%
超硬製工具類	5,234 (28.5%)	5,012 (28.8%)	95.8%
超硬製金型類	4,280 (23.3%)	4,514 (25.9%)	105.5%
その他の超硬製品	4,245 (23.1%)	3,854 (22.1%)	90.8%
超硬以外	4,596 (25.1%)	4,044 (23.2%)	88.0%
売上総利益	4,512 (24.6%)	4,021 (23.1%)	89.1%
販管費	3,239 (17.6%)	3,146 (18.1%)	97.1%
営業利益	1,272 (6.9%)	875 (5.0%)	68.8%
経常利益	1,348 (7.3%)	1,008 (5.8%)	74.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	950 (5.2%)	625 (3.6%)	65.7%

主な増減要因

▷売上高

・超硬製工具類：

増収：海外向け熱間圧延ロール、
超高压発生用工具
減収：混練工具、
冷間フォーミングロール

・超硬製金型類：

増収：自動車部品生産用金型、
光学素子成形用金型、
電池関連金型

・その他の超硬製品：

増収：自動車部品生産用の超硬金型
素材
減収：半導体及びスマートフォン
部品生産用の超硬金型素材

・超硬以外：

減収：引抜鋼管、
海外向け半導体用樹脂等の
鋼製生産工具、
K F 2製の混練工具
ダイヤモンド研削砥石

▷営業利益

売上高の減少等により前期比で減少

連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円、下段は構成比)

	2019年3月期末	2020年3月期末	
			前期末比増減
流動資産	14,103 (54.8%)	13,619 (54.9%)	▲483
固定資産	11,649 (45.2%)	11,195 (45.1%)	▲453
資産合計	25,752 (100.0%)	24,815 (100.0%)	▲937
流動負債	5,229 (20.3%)	4,115 (16.6%)	▲1,113
固定負債	1,774 (6.9%)	1,730 (7.0%)	▲44
負債合計	7,003 (27.2%)	5,845 (23.6%)	▲1,157
純資産合計	18,749 (72.8%)	18,969 (76.4%)	+220
負債・純資産合計	25,752 (100.0%)	24,815 (100.0%)	▲937

主な増減要因

(単位：百万円)

▷流動資産	
現金及び預金	+582
受取手形及び売掛金	▲444
電子記録債権	▲256
仕掛品	▲245
▷固定資産	
建物及び構築物	▲195
機械装置及び運搬具	▲176
投資有価証券	▲91
▷流動負債	
支払手形及び買掛金	▲589
未払金	▲387
設備支払手形	▲201
▷純資産	
利益剰余金	+145

(単位：百万円)

	2020年3月期
現金及び現金同等物期首残高	5,319
営業キャッシュフロー	2,548
投資キャッシュフロー	▲1,508
財務キャッシュフロー	▲515
現金及び現金同等物期末残高	5,854
フリーキャッシュフロー	1,039

主な内容

(単位：百万円)

▷ 営業キャッシュフロー

税金等調整前当期純利益	945
減価償却費	1,122
売上債権の増減額	707
たな卸資産の増減額	418
仕入債務の増減額	▲593

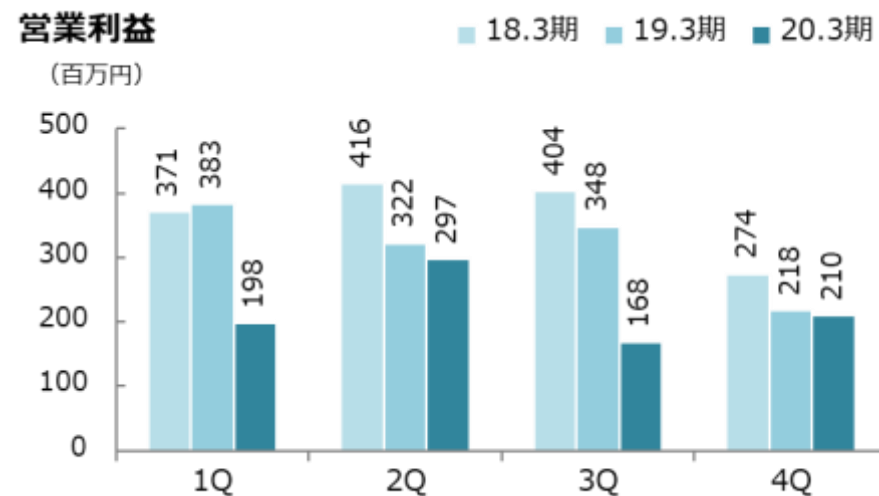
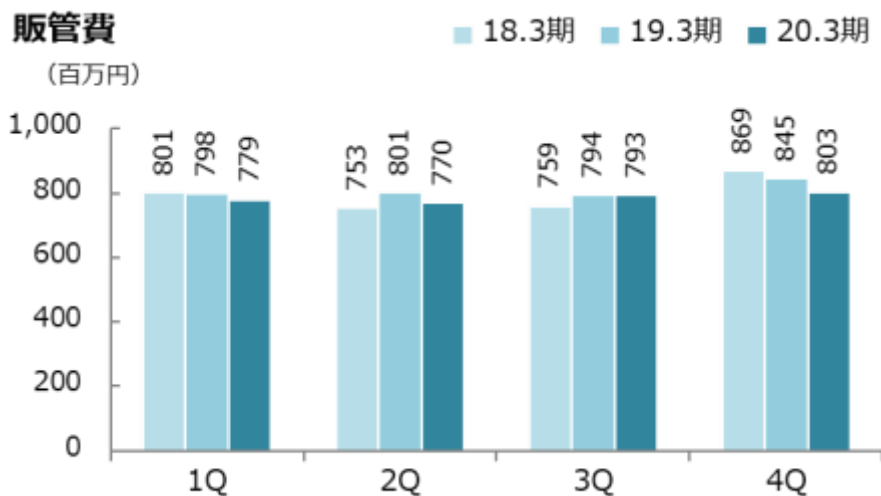
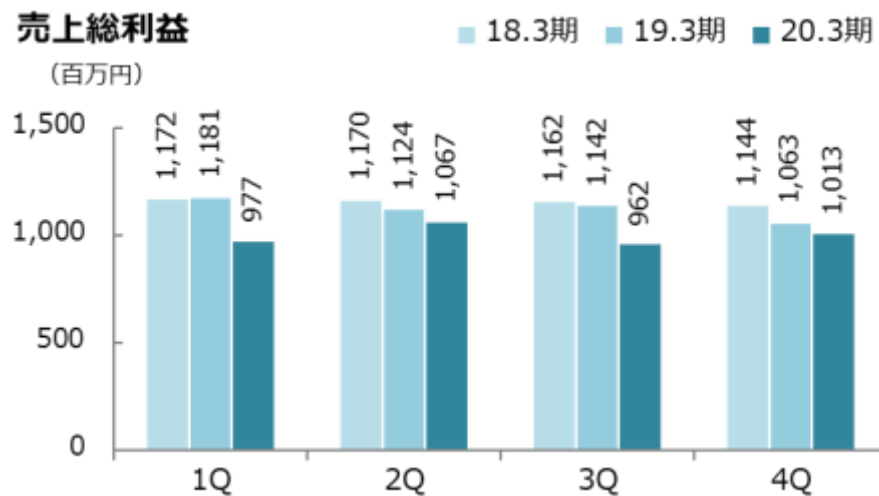
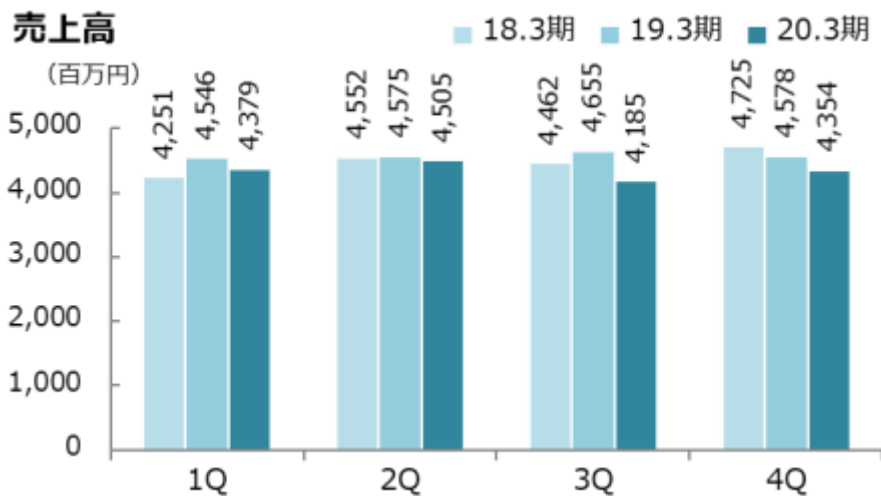
▷ 投資キャッシュフロー

有形固定資産の取得による支出	▲1,418
----------------	--------

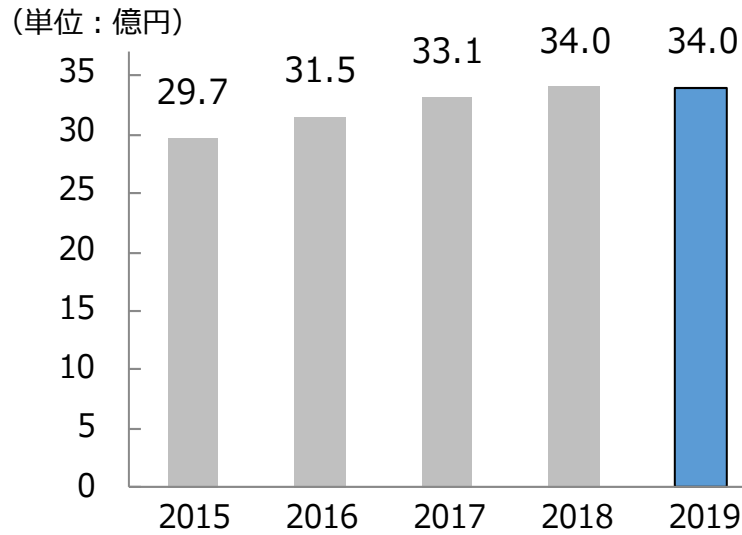
▷ 財務キャッシュフロー

配当金の支払額	▲480
---------	------

四半期業績推移



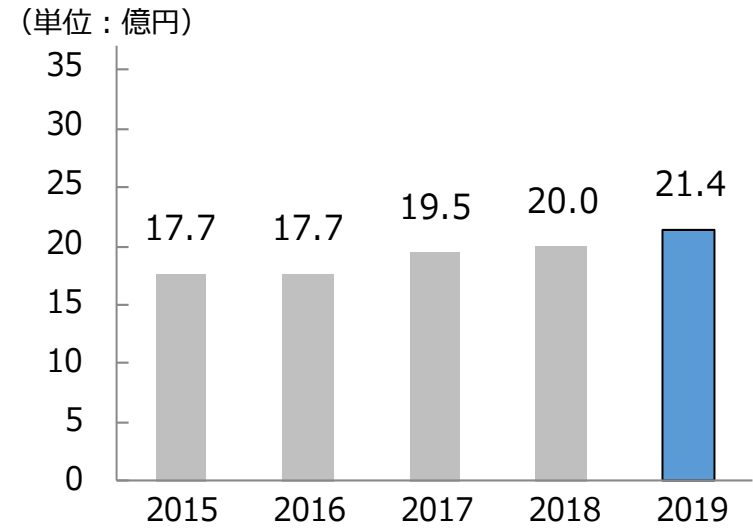
輸送用機械



<2019年度の概況>

- 環境対策車及び次世代自動車向けの部品用金型の受注が堅調
- 混錬工具は減少

生産・業務用機械

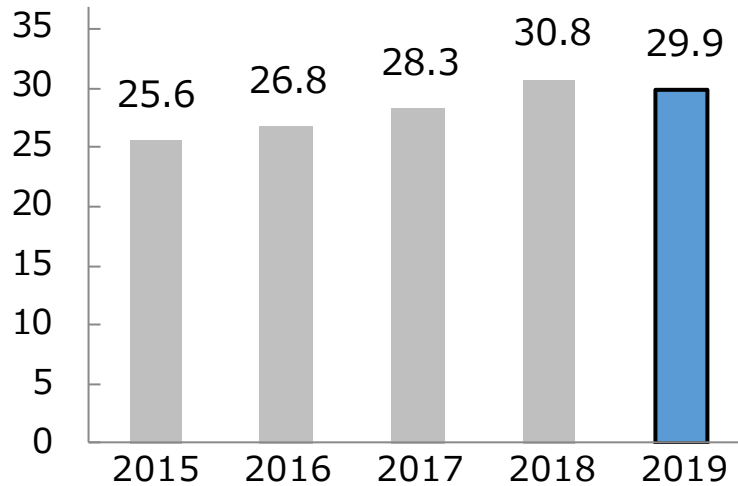


<2019年度の概況>

- 高圧関連工具が増加
- 光学機器用金型は微増
- 半導体製造装置向け部品は減少

鉄鋼

(単位：億円)

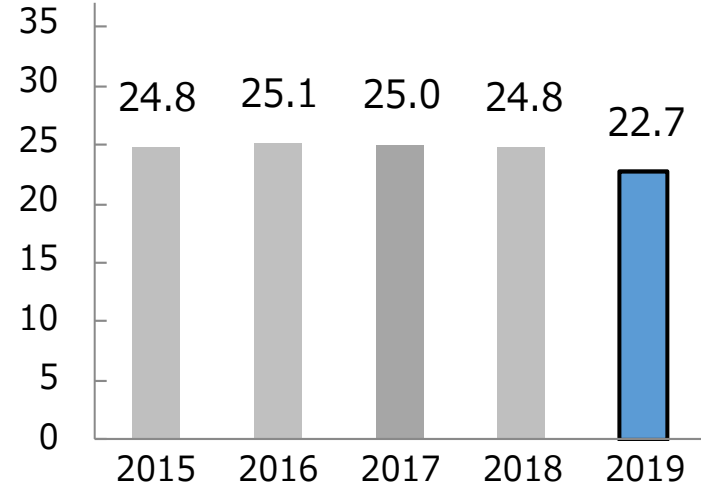


<2019年度の概況>

- 国内外高炉メーカー向け工具が横展開により堅調

非鉄金属・金属製品

(単位：億円)

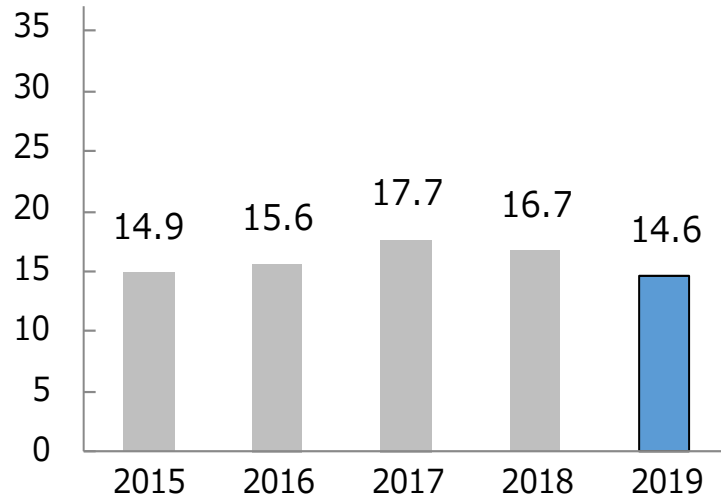


<2019年度の概況>

- 飲料缶の成型金型は微減
- 家電向け非鉄金属加工用工具は微減

電機・電子部品

(単位：億円)

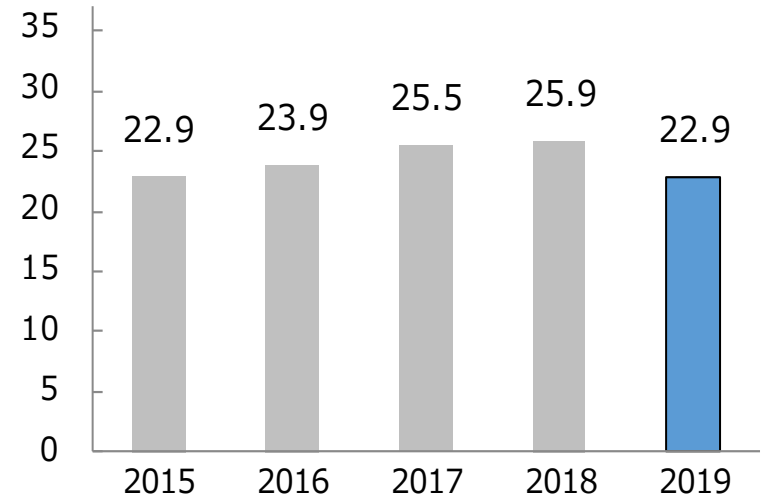


<2019年度の概況>

- 混錬工具が減少
- 電池向け金型は微減

金型・工具向け素材

(単位：億円)



<2019年度の概況>

- 半導体生産用、スマートフォン部品生産用の超硬金型素材が減少

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2020年3月期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	25
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	38

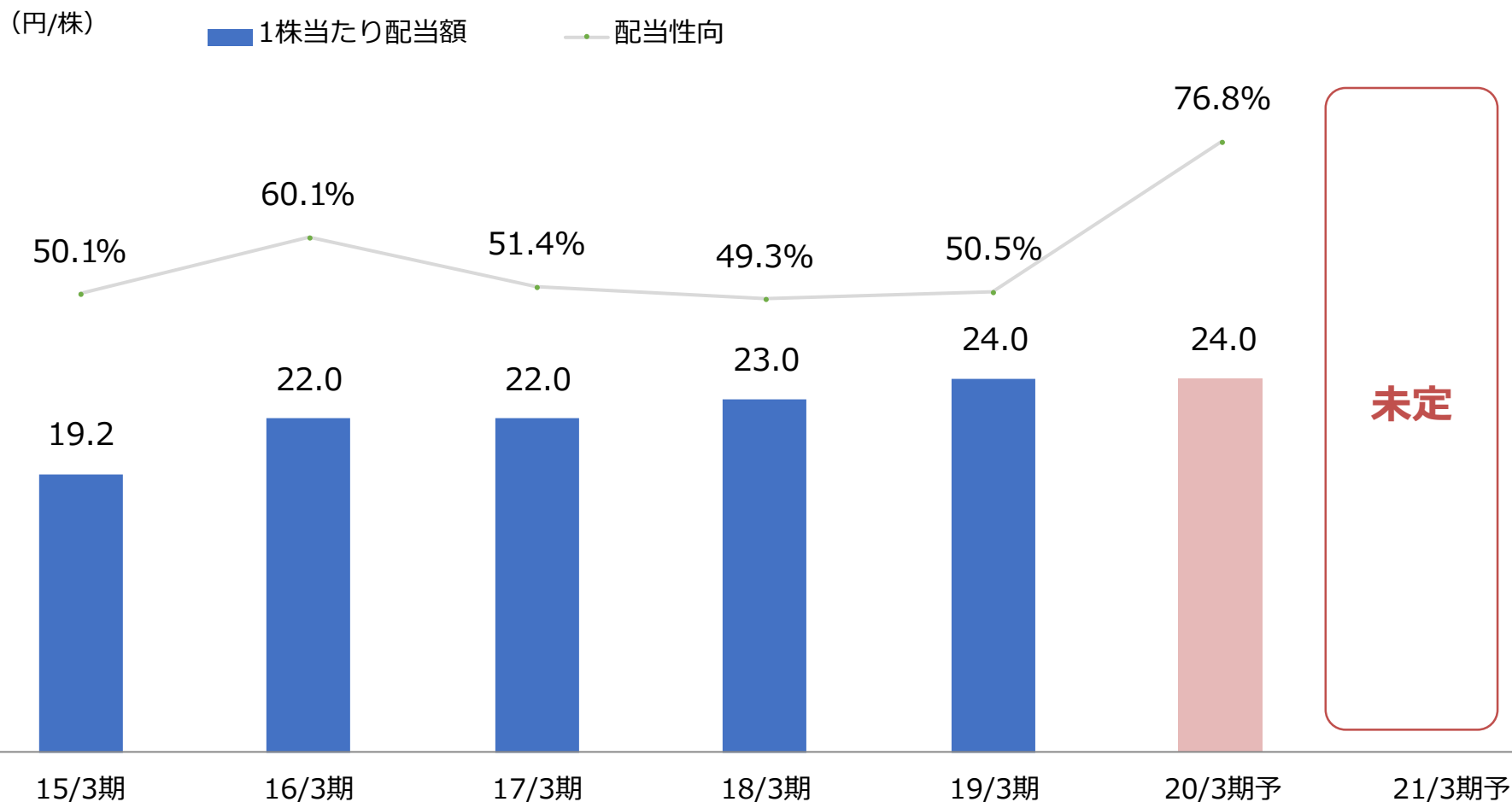
- 2021年3月期の業績計画は、新型コロナウイルス感染症による影響を現時点において合理的に算出することが困難であるため未定
- 今後、業績計画の合理的な算出が可能となった時点で速やかに開示予定

(単位：百万円、下段は構成比)

	2020年3月期	2021年3月期	
		計画	前期比
売上高	17,426 (100.0%)	未定	
営業利益	875 (5.0%)		
経常利益	1,008 (5.8%)		
親会社株主に帰属する 当期純利益	625 (3.6%)		
設備投資 (※1)	695		
減価償却費	1,122		

※1：有形固定資産分のみ

連結配当性向を50%を目処に適切な利益配分を実施



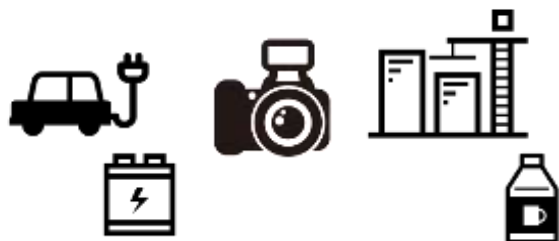
	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2020年3月期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	25
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	38

持続的な成長に向けた、当社を取り巻く事業環境見通しと対処すべき課題
（※計画策定時点）

事業環境見通し

当社の事業経営に大きな影響を
およぼす可能性のある因子

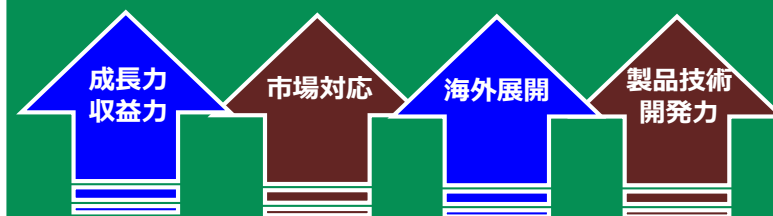
- 次世代自動車への転換
- 原材料（レアメタル）の価格上昇
- ラグビーW杯、東京五輪に向けた各種需要の盛り上がり（家電・カメラ、建設需要等）
- 環境負荷の低減要請の高まり
- IoT/AI社会の到来・浸透
- 日本の人口減少
- 中国・アセアン各国の経済成長



対処すべき課題

需要増に対応する生産体制の整備
将来の社会変化への準備

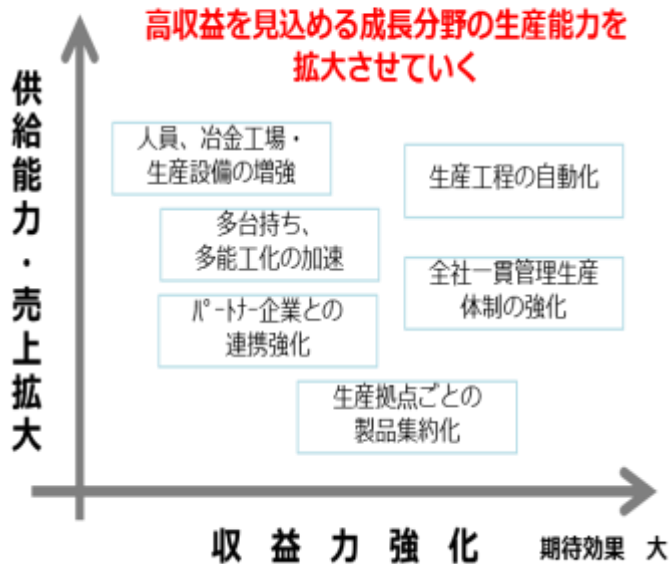
- 供給能力の向上
- 価格競争力の向上
- 生産効率の改善（IoT/AIの効果的活用）
- 原材料の安定調達（量、価格）
- 変化する市場環境への対応（素材開発、精密加工）
- 人材の確保
- 2020五輪後の持続的成長の種まき



- 生産体制・生産品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

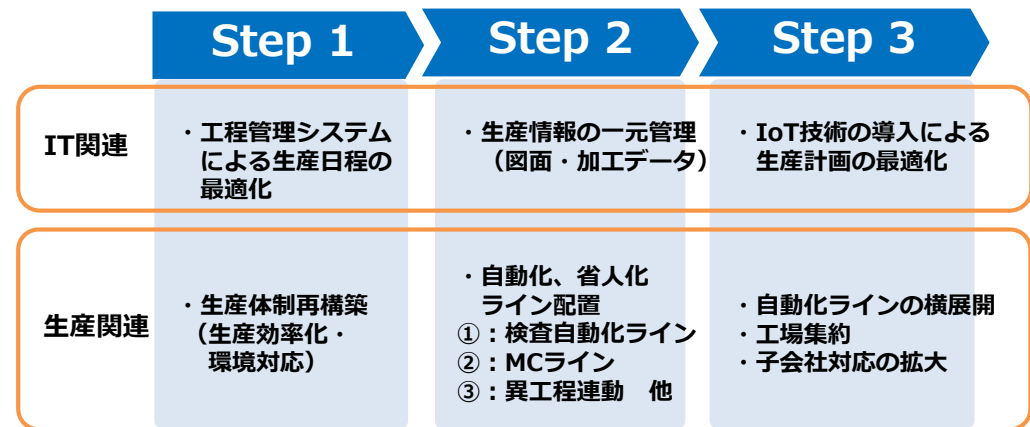
《生産部門の施策》

【成長力・収益力強化のための施策と期待効果マップ】



生産効率10%以上の改善施策


▼主な施策 IT（情報技術）と生産体制構築による生産効率向上



※Step1・Step2並行展開

- 生産体制・生產品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の効率化への取り組み》 -1

導入工程	時期	内容	効果 (作業時間・稼働)	画像
●MCライン (加工設備)	2019 年度	アーム付きロボットを導入し、セット治具を充実させ、MC機の稼働時間向上	2018年度比 稼働時間が 321時間増加	
●製造加工ライン	2019 年度	コンサルティングを活用した製造現場の効率改善に取り組む	モデル職場を対象とした改善により、 直接作業比率が増加 。 ・職場A：46.5%→60.6% ・職場B：16.4%→37.3% モデル職場の改善を継続実施する。 ※直接作業：設備操作、ワーク脱着など	

- 生産体制・生產品種の**最適化**
- IT化による各種**情報の一元化**
- 生産の**自動化**や**省人化**などの生産工程の効率化

《生産部門の効率化への取り組み》-2

導入工程	時期	内容	効果 (作業時間・稼働)	画像
● 高精度加工工程 (1)	2019 年度	自動車関係の高精度金型の取り込み ・ 試作・評価確認 ・ 量産化への課題抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試作品の客先評価良好 ・ 金型超硬化に向けて加工条件を確立。 ・ 対象製品の生産金額増加 (2018年度比249%増) 	
● 高精度加工工程 (2)	2019 年度	半導体装置関係の高精度製品の製造を手作業からロボットによる自動加工に変更し省人化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット作業による加工条件を確立。それにより従事人数の削減及び超精密製品の加工精度、加工時間の安定化に成功。 ・ 2020年度から製品の製造に適用する。 	

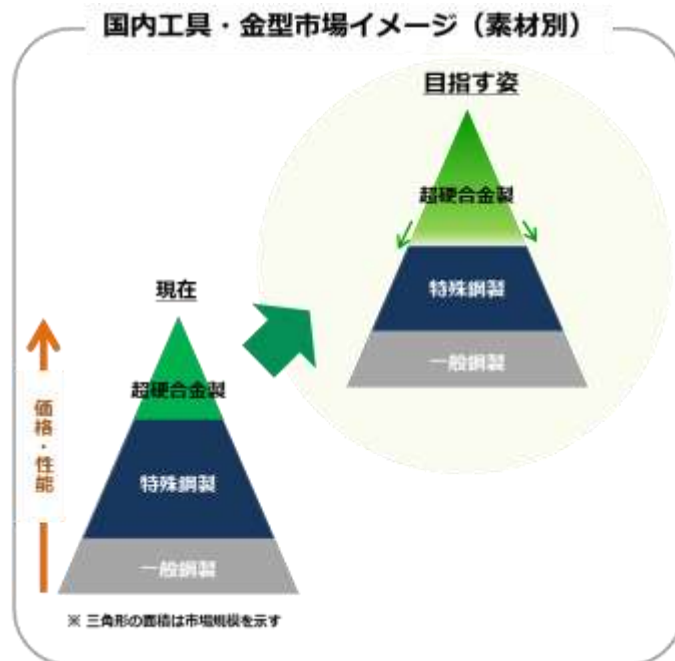
既存重点市場の維持拡販を行いつつ、成長分野の主要サプライヤーを目指す

既存重点市場の維持拡販

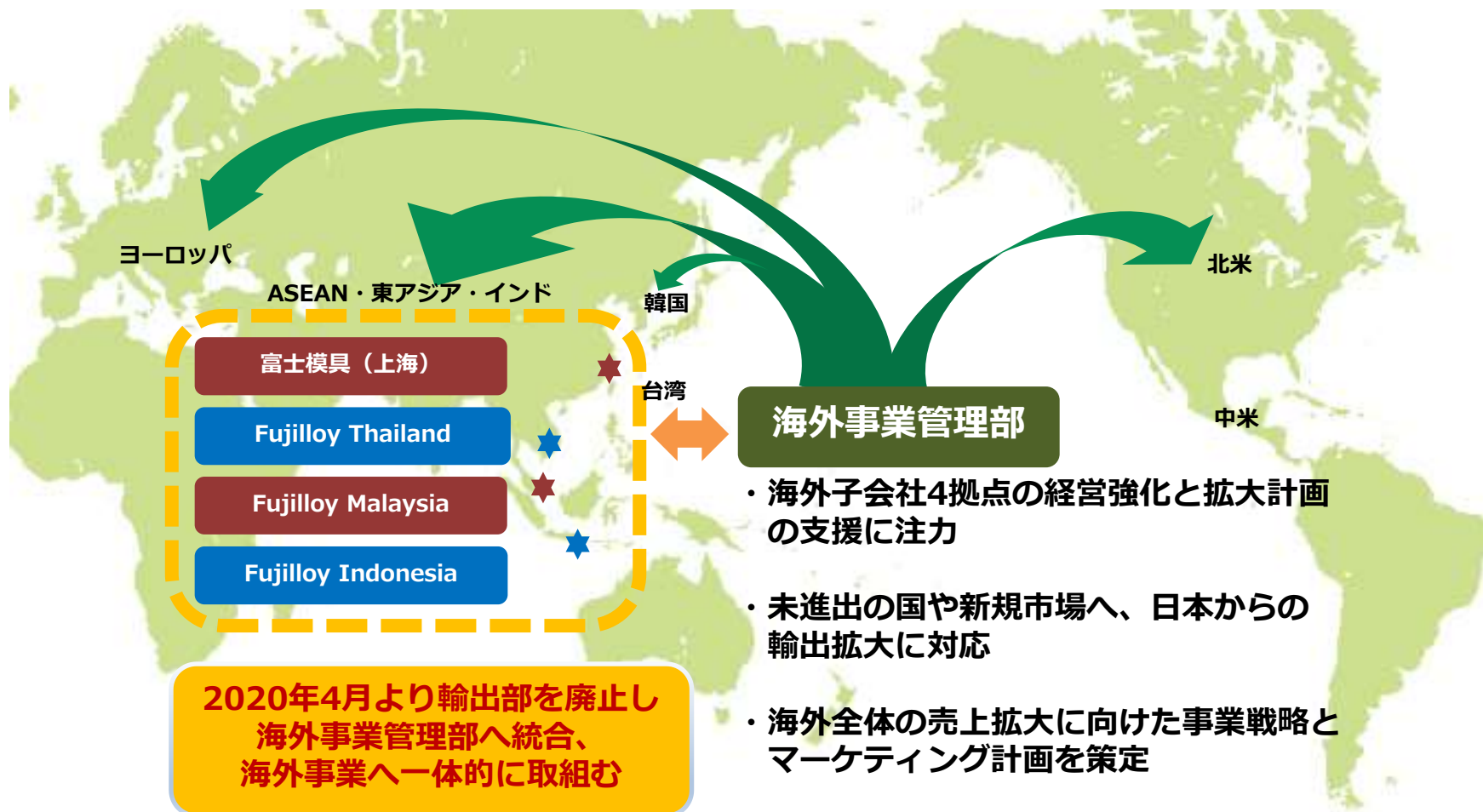
- 半導体関連、缶器、ステアリング工具、レンズ金型などを重点市場と定め、既存顧客の深堀、同業への横展開を含め、維持拡販を図る
- 超硬合金の性能の高さ（硬度、製品寿命、変形しにくさ等）を改めて訴求し、従来特殊鋼が用いられていた工程で超硬合金製の工具・金型への転換を提案し、新規案件を開拓

営業力の強化

- 営業部門の再編
 - 地域の市場規模に応じた人員配置
 - *名古屋営業所の移転：2018年6月
 - *北九州営業所の移転：2019年8月
- ソリューション営業の強化
 - 顧客の新製品立上げ支援（製品開発初期からの協業、積極的な試作品投入）
- 営業員の能力開発
 - 階層別教育の拡充（外部講習、e-ラーニング等）
 - タレントマネジメントシステム導入による個の力量把握と向上支援
- IT利活用による一層の業務効率改善
 - SFA（営業支援システム）やオンライン商談システムを活用した緊密なコミュニケーションと顧客/技術ナレッジの共有化の促進
 - 社内の各種文書のデジタル化推進
- 各種媒体への企業PR促進（展示商談会、WEB広告、新聞・専門誌への出稿 他）



- 当社グループの持続的成長を維持していく為に、海外子会社の生産能力増強と日本からの直接輸出増の両輪で売上拡大を図る



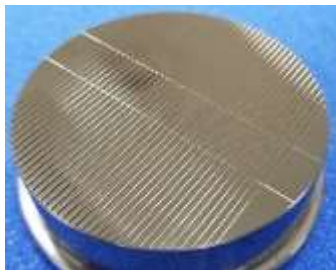
新製品・新技術の開発強化

分野	概要	素材	優位性	進捗状況	販売時期(予定)		
					2018年	2019年	2020年
次世代自動車	①モーター用抜き金型	①超硬合金	①材料技術	①販売中	→		
	②車載電池用金型	②超硬合金	②加工技術	②サンプル出荷	→		
	③過給器用機械部品	③NFメタル	③材料技術 (特許出願)	③サンプル出荷	●	→	
	④電池部品用高精度金型	④超硬合金	④加工技術	④技術確立中	●	→	
航空・宇宙	①航空機エンジンタービン加工向け工具	①セラミックス	①材料技術 (特許取得)	①販売中	→		
	②燃料ポンプ用摺動材	②NFメタル	②材料技術 (特許取得)	②性能評価中	→		
医療・化粧品	①分析マイクロチップ用金型 (μ-流路)	①超硬合金	①加工技術	①サンプル出荷	→		
	②錠剤シール用金型	②鋼	②加工技術	②技術確立中	→		
環境・エネルギー	①半導体向け高熱伝導用素材	①Cu-Dia	①材料技術 (特許取得)	①販売中	→		
	②高圧合成法を用いた触媒	②新物質	②材料技術 (特許取得)	②サンプル準備完了	●	→	
その他	①高熱膨張レンズ用金型	①Cr基合金	①材料技術 (特許取得)	①販売中	→		
	②高圧発生装置用素材	②超硬合金	②材料技術 (特許取得)	②販売中	→		
	③超硬3D造形素材	③超硬合金	③材料技術 (特許出願)	③技術確立中	●	→	

下記製品・技術を顧客企業と協働で開発中

● シリンダリカルレンズアレイ用金型の開発

技術・製品の特長



レンズアレイ金型

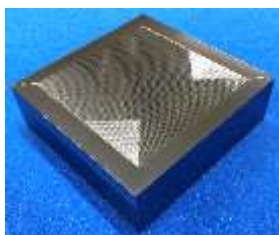
- シリンダーレンズエレメントを等間隔で配置
- アレイ間のピッチ精度1 μ m以下
- 複数レンズの形状精度0.2 μ m程度

期待効果・用途例

- レーザー加工機の光源エネルギーを効率的に集光するためのキーパーツ
- シリンダーレンズ形状を連続して配列することで効率的な生産性を実現
- レーザー加工機の高性能化、低価格化

● 超合金直彫り加工技術の開発

技術・製品の特長



流路金型(超合金)

- 大面積(100mm \times 100mm)への超合金直彫り加工を実現
- 微細な流路形状を複数配列
- 流路配列のピッチ精度1 μ m
- 流路断面の形状精度5 μ m

期待効果・用途例

- 医療分野
⇒ 分析デバイス用成形金型
(マイクロ流路、マイクロウエル)
- エネルギー分野
⇒ 二次電池部品加工用金型

営業

- 受注環境
(既存) 主に輸送用機械、鉄鋼分野の稼働率低下で、当社主要顧客からの受注は苦戦。
(新規) 一定期間、商談活動が行えない状況であったため、今後の状況改善に応じて適宜対応。
- 国内、海外の状況
(国内) 訪問や面会が禁止されている顧客もあり、可能な範囲で個別に対応を実施。
(海外) 国によって施策が異なり、国内と同様に個別対応が必要。

生産

- 国内外各工場の生産状況、勤務対応
当社の国内全工場は生産活動を継続中。ただし、3密回避のため時差出勤、人員の分散配置、集合教育の一時取り止め等で対応。
- サプライチェーン（原材料調達、物流等）への影響と対応
 - ・新型コロナウイルスの影響で諸外国がロックダウンの処置を行ったが、原材料は国内の原料仕入メーカーと当社内の備蓄量を合わせて、必要十分な量を確保。
 - ・物流による遅延の影響は今のところ見られないが、頻繁に情報収集を行い状況変化への対応準備。

その他

- 勤務形態、その他対応
 - ・通勤時及び職場での感染予防策として、在宅勤務と時差出勤の推進、公共交通機関による通勤の抑制、職場での業務スペース分散、全従業員へのマスク配付等を実施。
 - ・県外移動を伴う国内出張や海外出張を原則禁止。
 - ・在宅勤務者の情報システム、メールへのアクセス整備、Web会議等の活用を推進、業務品質の確保に必要なIT環境の見直しと拡充を実施。
 - ・事業継続に不安のない財務健全性を維持（高い自己資本比率、潤沢な手元資金）。

	page
I : 会社概要	2
II : 当社の特長	6
III : 2020年3月期 業績概要	14
IV : 2021年3月期 業績見通し	25
V : 成長戦略（中期経営計画）	28
VI : 参考資料	38

企業理念

- 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

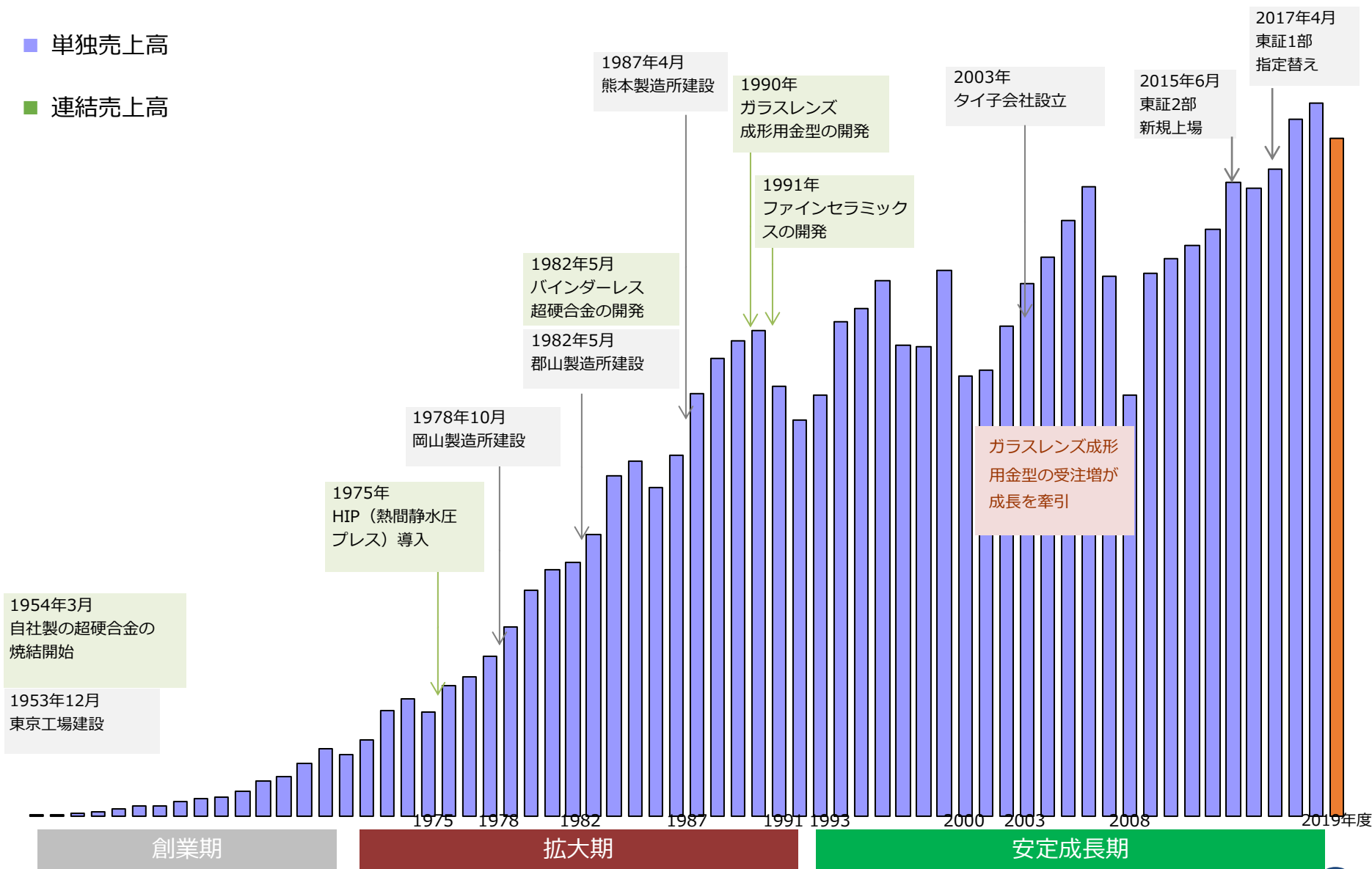
- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

- 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
- 品性ある企業グループ並びに企業人

主な沿革

- 単独売上高
- 連結売上高



(注) 2012年度以降は連結

耐摩耗工具とは？（ダイスとプラグ）

- **超高精度の金属加工（塑性加工）**を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、**生産性に直結する重要な部材**
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

代表的な耐摩耗工具 ダイス・プラグ



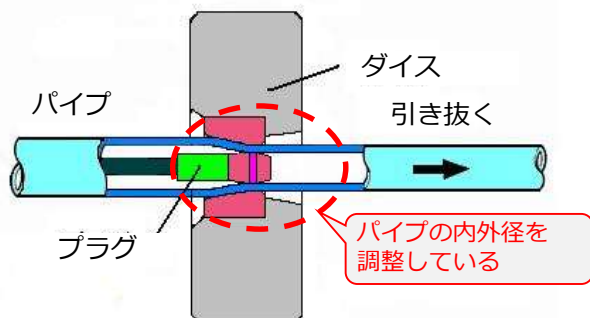
プラグ

パイプの内径を決める工具

ダイス

線材、棒、パイプ等の外径を決める工具

【ダイス・プラグの使用例】



ダイス・プラグは多くの製品の製造に用いられる



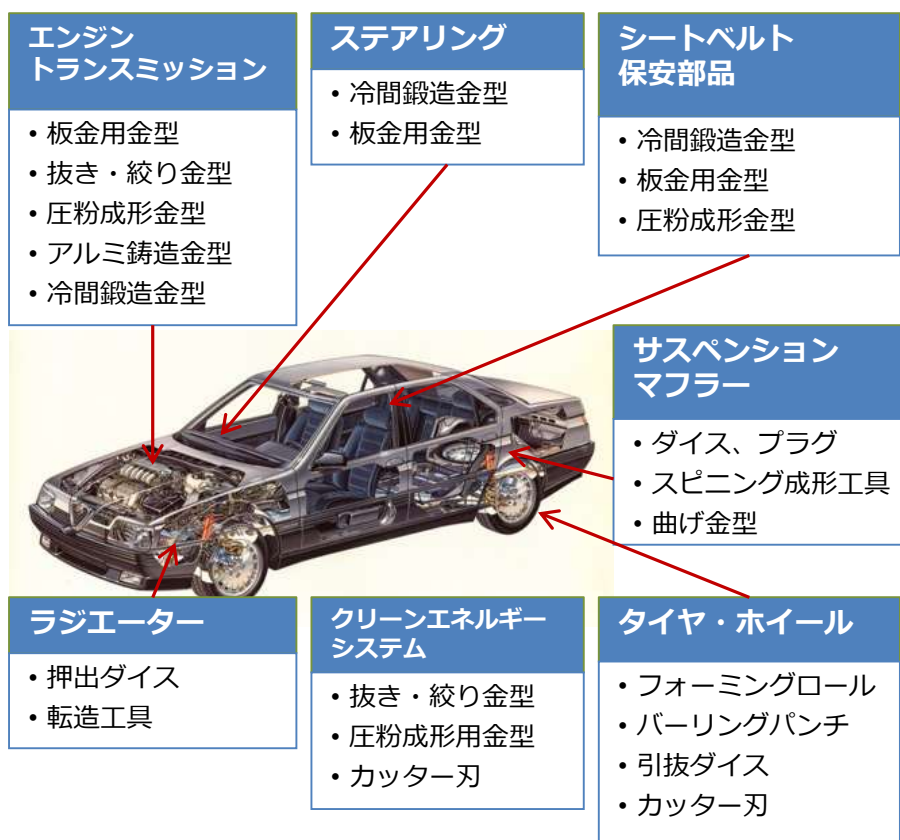
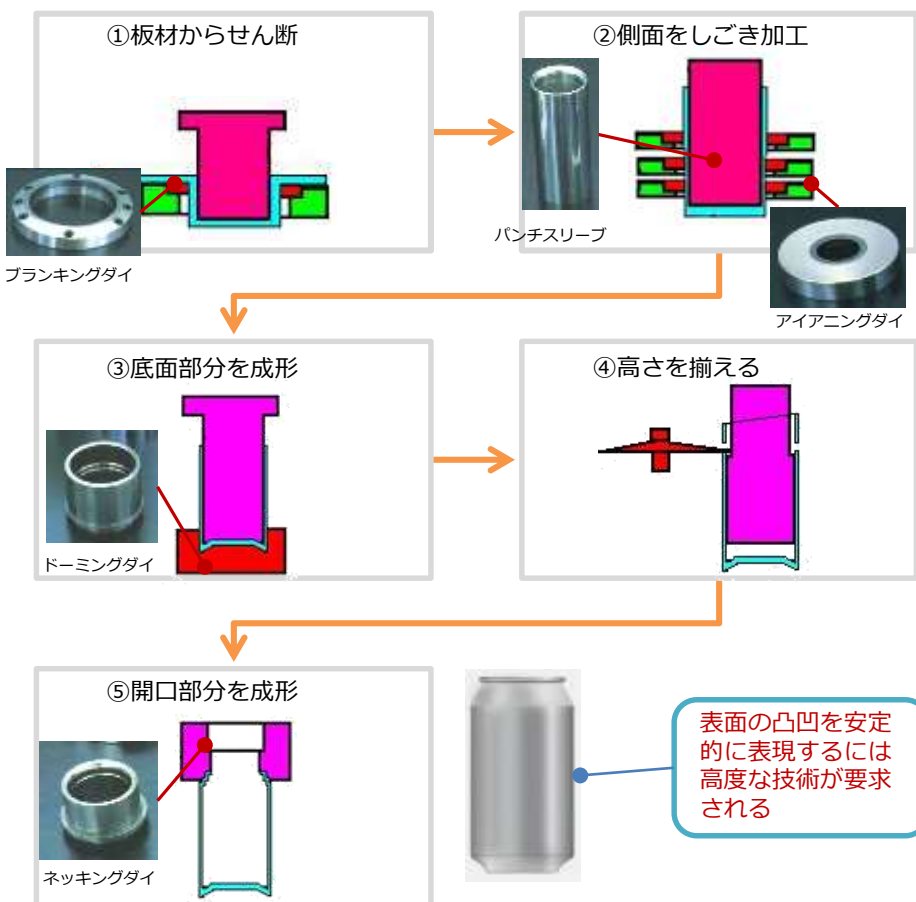
単純形状から複雑形状、直径1mm以下の小型製品から直径500mm超の大型製品まで対応可能な技術力・設備を有する超硬耐摩耗工具・金型の国内トップシェア企業

耐摩耗工具とは？

- **超高精度の金属加工（塑性加工）**を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、**生産性に直結する重要な部材**
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

飲料缶の製造工程（軽量化・薄肉化・小型化に貢献）

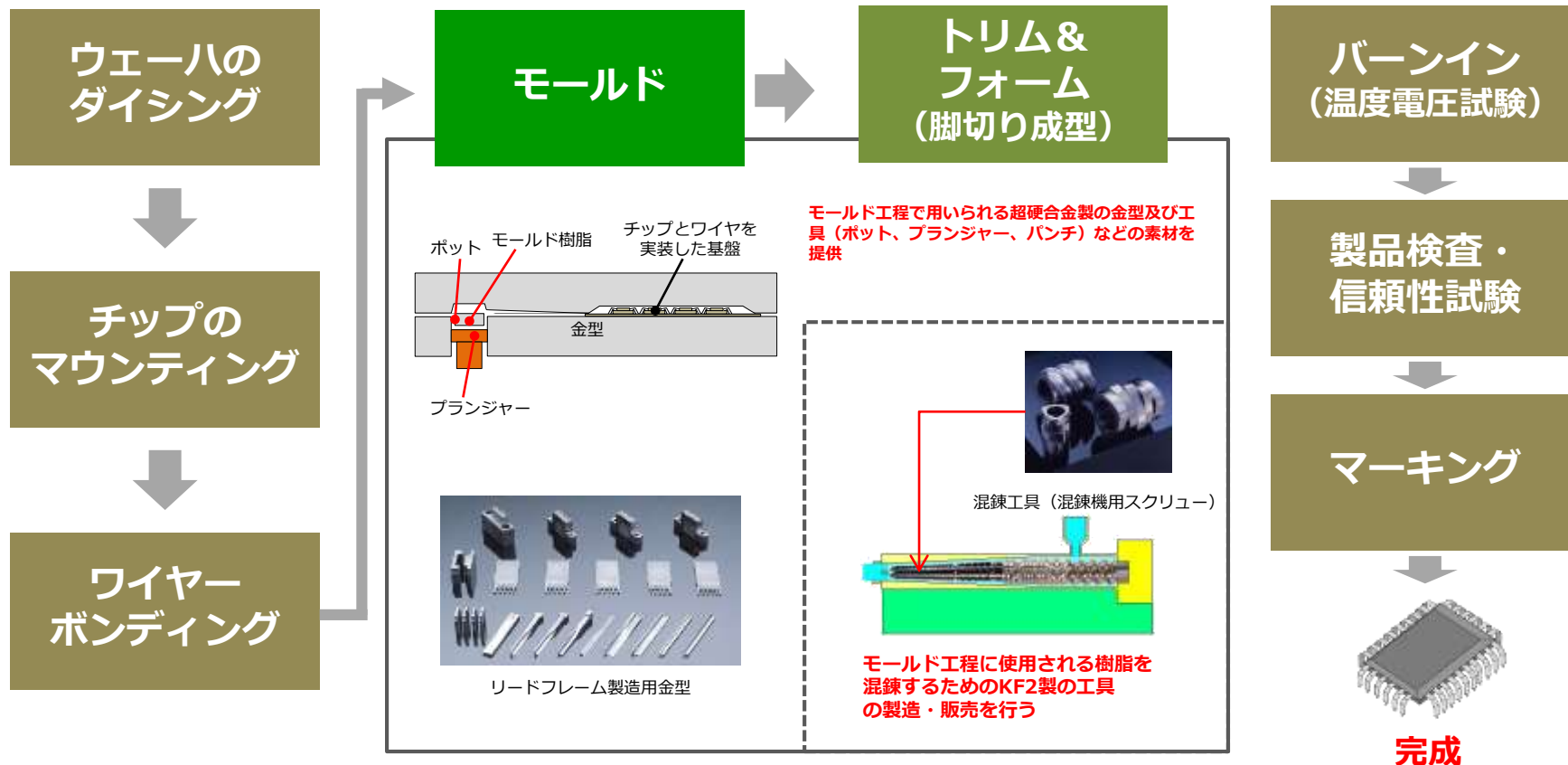
自動車部品の製造に多く用いられる

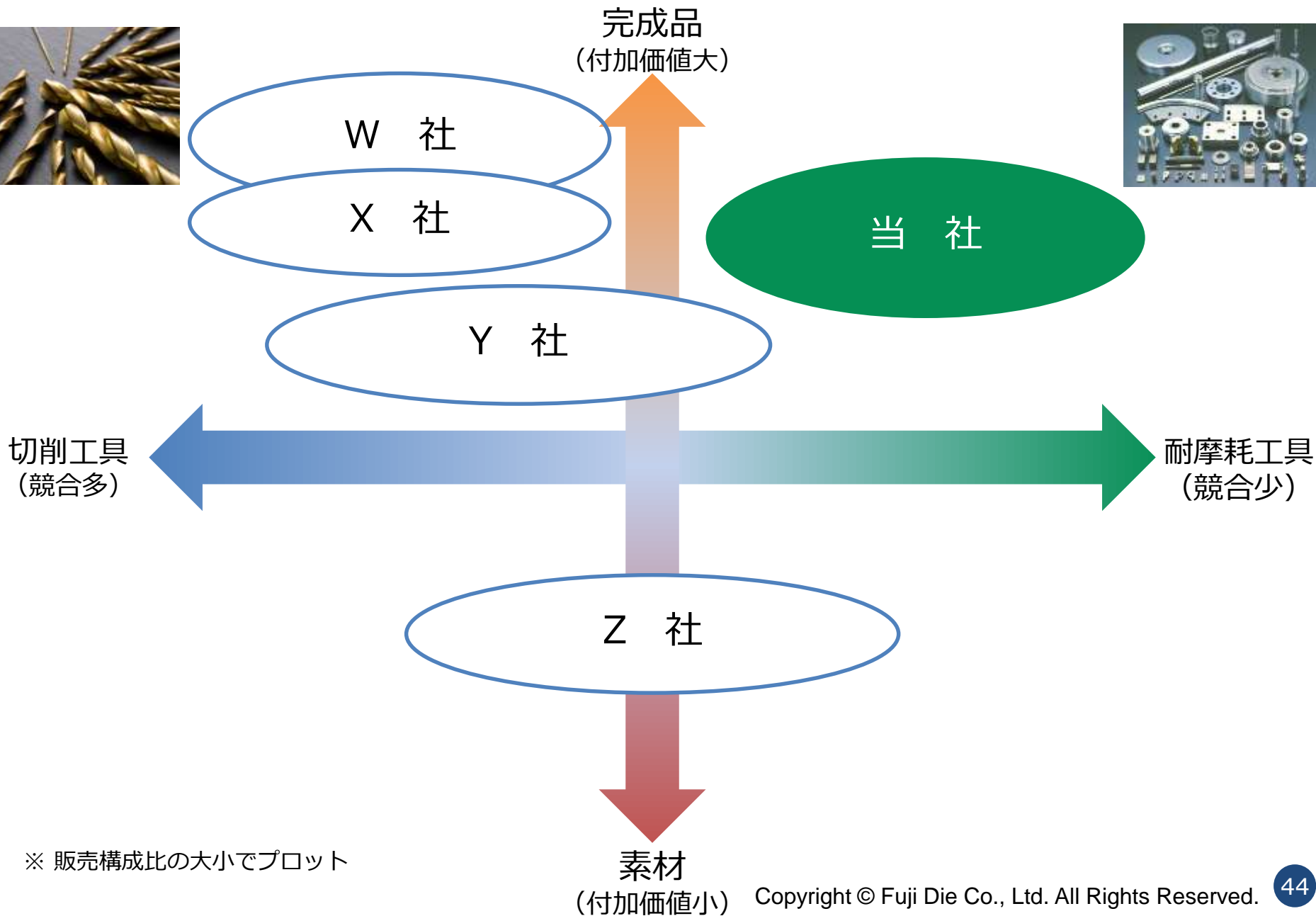


- 超高精度の金属加工（塑性加工）を実現する工具・金型
- モノ作りのコアな工程における、生産性に直結する重要な部材
- 最適な工具・金型選びが、加工速度、精度に大きく影響

半導体の製造工程にも用いられる

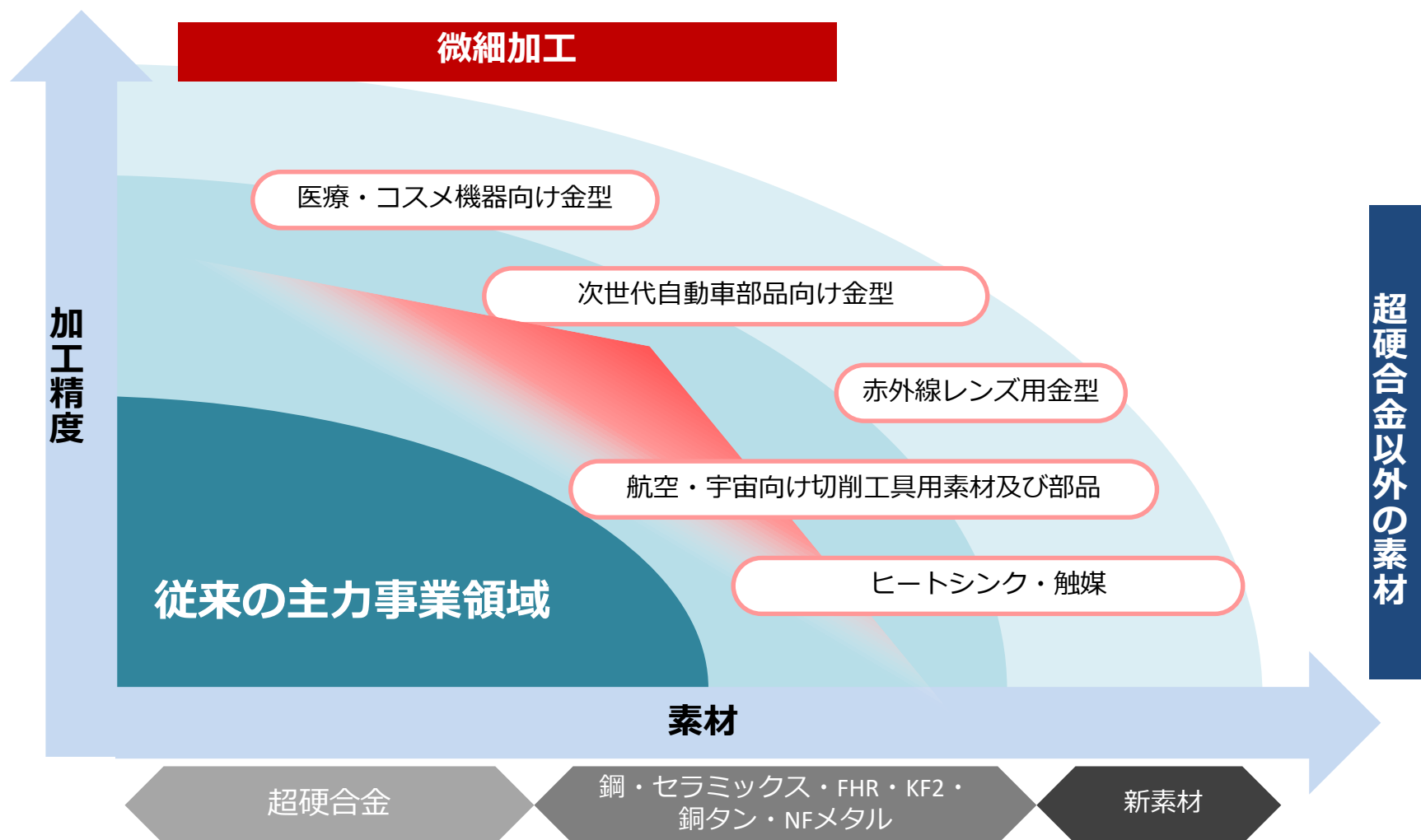
【後工程】



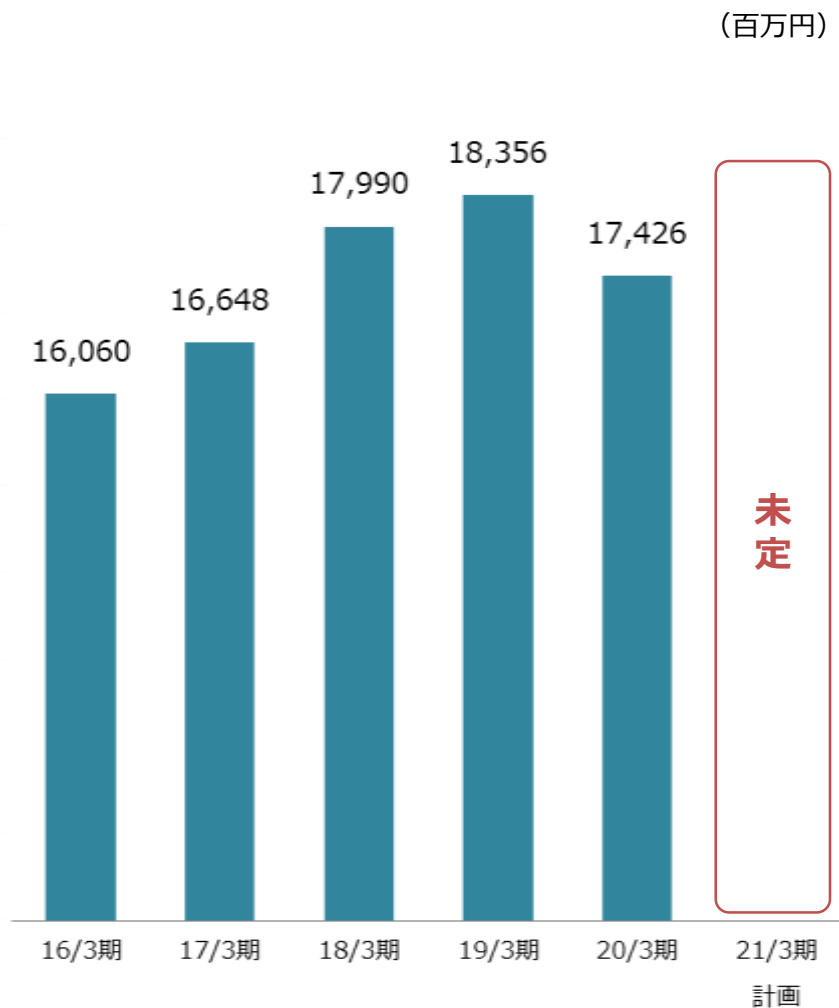


※ 販売構成比の大小でプロット

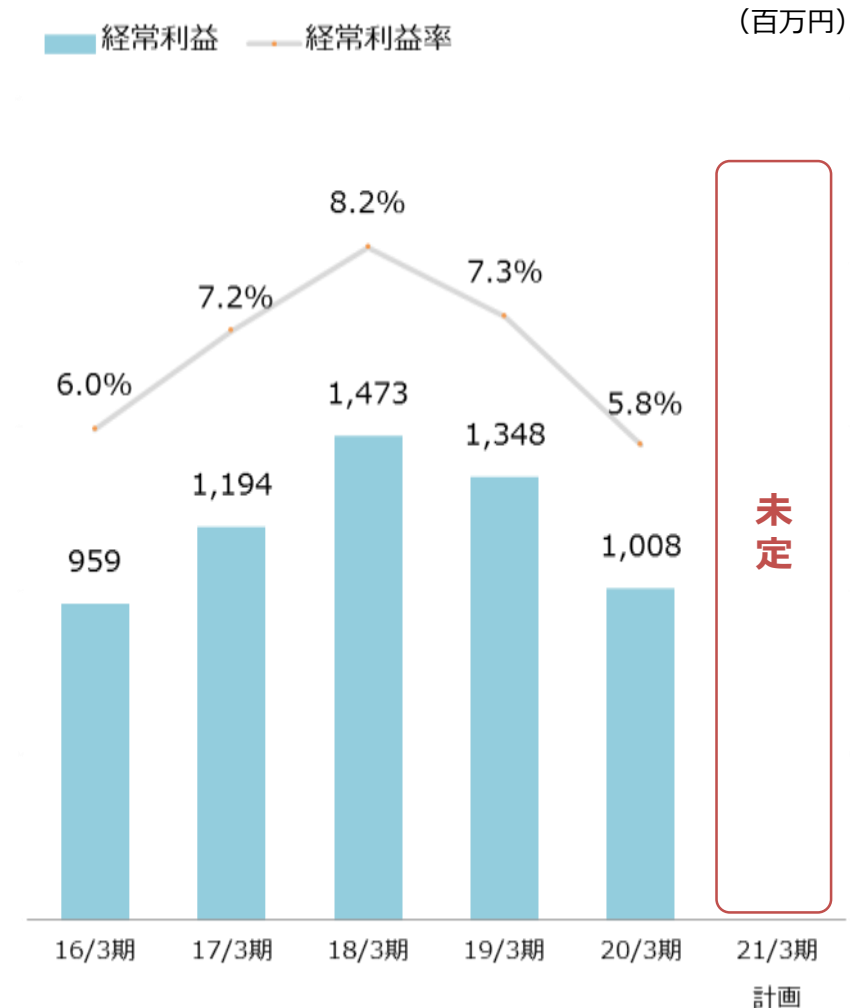
- 粉末冶金技術を駆使した**新材料**の研究開発を強化し、耐摩耗工具**以外**へ進出
- **超精密加工技術**を用いて研究開発を進展させ、**新しい産業分野**を開拓



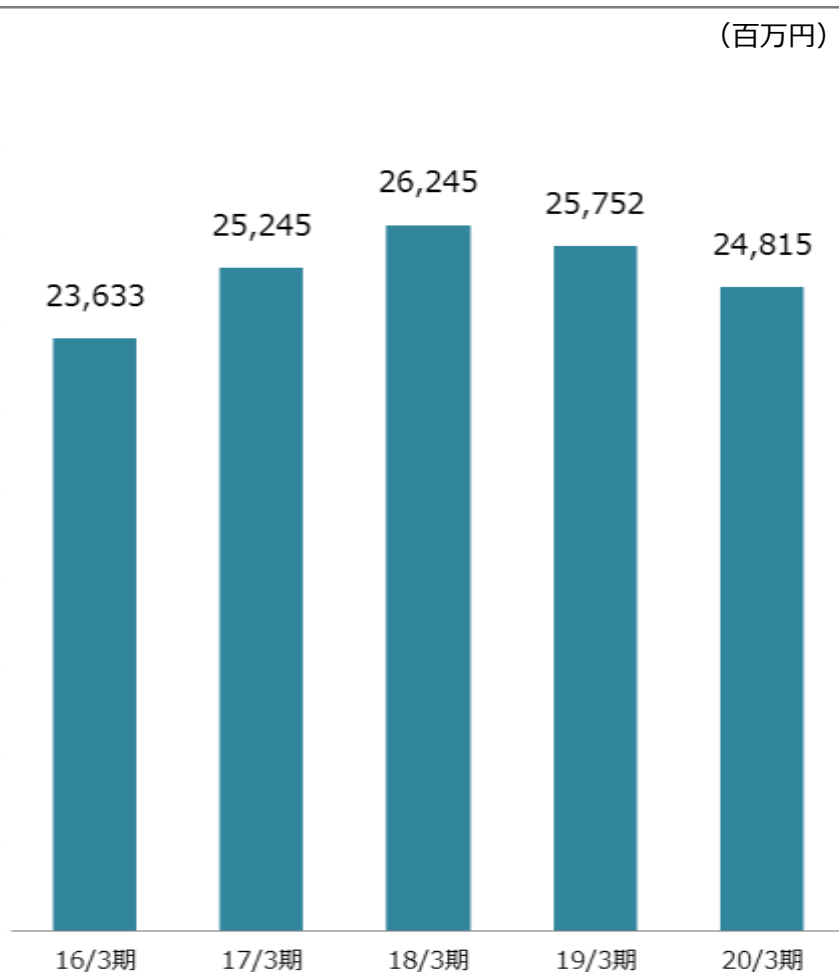
売上高



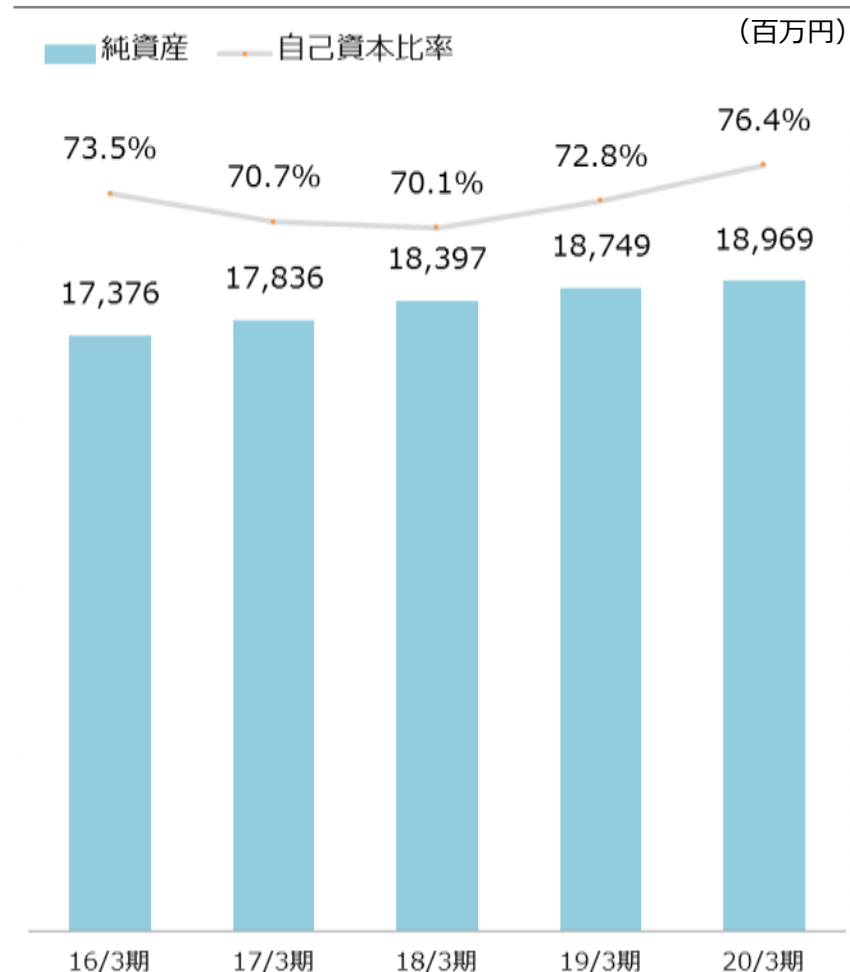
経常利益



総資産

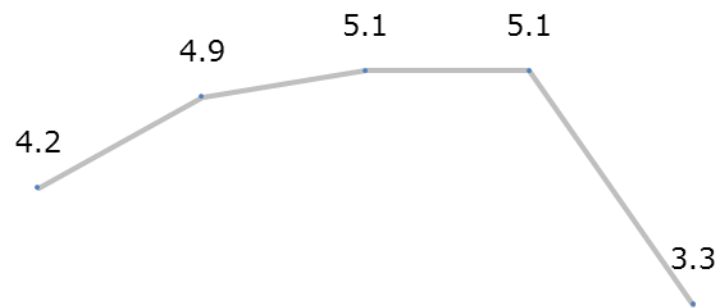


純資産



ROE

(%)



16/3期

17/3期

18/3期

19/3期

20/3期

- 富士ダイス単体の主な経営指標は以下のとおりです。

（単位：百万円、下段は構成比）

	2019年3月期	2020年3月期	
	実績	実績	前期比
売上高	16,315 (100.0%)	15,708 (100.0%)	96.3%
経常利益	1,456 (8.9%)	991 (6.3%)	68.1%
当期純利益	1,161 (7.1%)	634 (4.0%)	54.7%
純資産額	17,609	17,728	100.7%
総資産額	23,952	23,102	96.5%
自己資本比率	73.5%	76.4%	+2.9%

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。